

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 岡山天体物理観測所建設初期の鴨方駅、金光駅周辺 (百周年記念誌資料 1-28-1)**

東京天文台 100 周年記念誌資料の整理を引き続き行っている。これらの資料は3つの段ボール箱に入っていた。今回の資料は一番目の段ボール箱に入った No. 28 と記されたアルバムの中から、岡山天体物理観測所の建設が始まったころの山陽本線の最寄り駅であった鴨方駅、金光駅とその周辺の写真である。アーカイブ室新聞第 346 号 (2010 年 6 月 9 日) のリストに下記のように記されたアルバムの一部である。

28) 岡山天体物理観測所建設前、建設中のアルバム、主として鴨方町、金光町の写真

岡山天体物理観測所起工式が行われたのは 1958 年 12 月 17 日であったから、この写真は 1958 年頃のものであろう。



写真 1 山陽本線鴨方駅ホーム



写真 2 鴨方駅ホーム 上り線



写真 3 鴨方駅ホーム (貨物引込線)



写真 4 鴨方駅前

当時、山陽本線は電化されておらず、蒸気機関車が客車、貨車を引いていた。鴨方駅は鴨方の町の南隣の六条院町にあった。山陽本線が引かれた頃は、鉄道を迷惑がって他の町に追いやるケースがよくあり、2つ東の玉島駅 (現在の新倉敷駅) も鉄道が通ると玉島の港が寂れると言って北隣の長尾町に玉島駅ができた。写真の下にはそれぞれ脚注が書いてあり、写真の番号の後ろに入れた。写真3の横には別の脚注があり、写真3に写っている石

についての説明書きがあり、「石塊は杉谷産の蠟石で耐火煉瓦の原材」と書かれている。杉谷は鴨方町の集落の一つである。写真4はピンボケであるが、駅舎の中から駅前を撮ったものである。



写真5 鴨方駅前



写真6 鴨方駅前

写真5、6は、鴨方駅前広場である。この頃はまだボンネットバスが走っていた。鴨方駅から出るバスは井笠鉄道バスであった。岡山天体物理観測所ができてからは、天文台経由遥照山行きというバスがあった。こういった駅前には、旅館が1軒あるのが普通であり、富山の薬売りなどが利用していた。



写真7 鴨方駅前



写真8 中山峠へ

写真7は駅前から西に向かう道路で、5~60mほどで鴨方の町に向かう。写真7には(「府県道矢掛鴨方停車場線」天文台へ通ずる道路の起点)との脚注がある。写真8は駅前から



写真9 天草池東方



写真10 鴨方本町に入る 前方遥照山

すぐ北に向かう道路で、国道2号線を超えて中山峠に向かう道である。写真9には「天草池東方」と書かれている。鴨方駅から国道2号線を超えて400mほど行くと左手に天草池という大きな池があった。この写真9はその東方向の農家が点在する風景である。写真10は、天草池を超えて真北に向かう道路で「前方遥照山」と書かれているが、天文台予定地は遥照山系の西峰の竹林寺山山頂近くである。



写真11 鴨方廳舎 鴨方本町

写真11は、当時の鴨方町鴨方庁舎の写真である。鴨方町は昭和30年(1955年)には六条院町と合併し、新たな鴨方町になっている。写真11の表札には浅口郡町村会事務局と鴨方町鴨方廳舎と書かれているから六条院には鴨方町六条院廳舎があったのであろう。観測所完成の頃には鴨方町役場は鴨方駅近くの小高い丘の上にあった。



写真12 本町十字路付近



写真13 新橋付近より竹林寺山を望む

写真12は、鴨方本町で旧鴨方町の中心地である。写真13は、鴨方の町を抜けて北に開けたところに出て、水田の向こうに農家が見えている。その向こう遙かなたには天文台建設予定地である竹林寺山の頂が見えている。アルバムの台紙に写真14の絵が描かれている。まだ、天文台の工事の様子は全く写っていない。

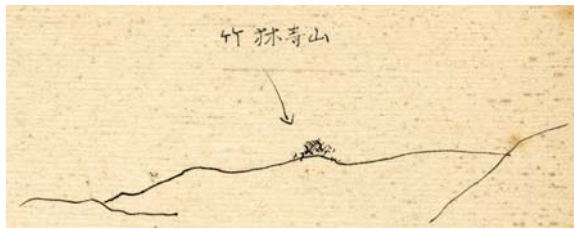


写真 14



写真 15 地頭上字宮ノ脇



写真 16 地頭上字後谷



写真 17 地頭上字山ノ奥池堤下

写真 15～17 は、鴨方の町を抜けて山に差し掛かるあたりの集落の名前が書かれている。そのほかの脚注として、写真 15 には「麦稈燻小屋」と書かれている。この建物は鴨方の農産物の一つであった麦稈眞田の材料になる大麦の茎を漂白する小屋で、漂白した麦わらを平らにして編んだものが麦稈眞田で、これを使って麦わら帽子が作られた。漂白には硫黄を燃やした亜硫酸ガスが使われたので、その匂いが感じられる写真である。写真 16 には「前方竹林寺山」とあり、写真 17 には、これも岡山県南部の特産物であった葉タバコの乾燥小屋である。

次はアルバムの順では後ろになるが、金光駅とその周辺の写真である。金光町は金光教の本部のある町で、参拝客のための臨時列車も止まるため、田舎の駅であったが 5 番ホームまであった。写真 18、19 は金光駅前広場である。写真 20 は金光駅前の商店街であり、写真 21 の看板には「東洋一天文台建設地・遥照山ラジウム霊泉」と大きく書かれている。



写真 18 金光駅（山陽線）



写真 19 金光駅



写真 20 金光駅前商店街

写真 21 金光駅の広告

写真 22 は広告の拡大写真である。

岡山天体物理観測所が誘致された時には、岡山県民には遥照山に建設されると報道されていた。遥照山頂は鴨方町と金光町の町境なのである。遥照山頂は瀬戸内海国立公園を望む景勝地であり、マイクロ波の中継地でもあり、またラジウム霊泉と書かれているように目の病にご利益のある寺院があるところで、東に倉敷、岡山の市街を望むので、少しでも明かりを避ける意味でも、実際の建設地は西の峰である竹林寺山山頂になったのであろう。

ちなみに、鴨方駅近くには「東洋一竹林寺山天文台」という大きな広告が建っていた。



写真 22



写真 23 遥照山霊泉



写真 24 遥照山霊泉浴場の一部



写真 25

写真 23 がラジウム霊泉の源泉、写真 24 は霊泉浴場宿、寺の宿坊などが並ぶ風景である。これらの観光施設は金光町側にある。写真 25 は、遥照山山頂のマイクロ波の中継設備の一つである。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)